



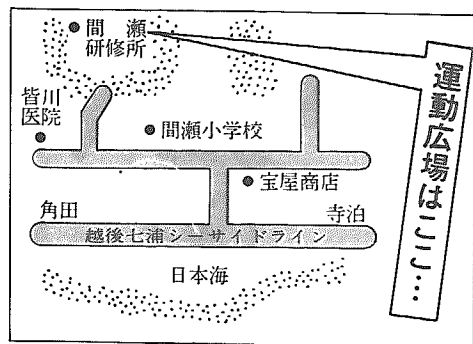
▲女子ソフトボール大会目指して練習。子供たちも応援に——(7月19日)

地域づくり

間瀬運動広場の拠点に



▲間瀬女子ソフトボール部のみなさん



運動広場ができてから、ますます練習が楽しくなりました。とかく運動不足になりがちな家庭婦人ですが、この広場でスポーツの楽しさを味わいながら体力づくりができることに感謝しています。これからも会員の親睦を図りながら、ボールを追いつけるつもりです。



間瀬女子ソフトボール部
柏分勝子さん
(間瀬7区・42歳)

練習が楽しくて

「今年から始めたゲートボール。今まで小学校のグラウンドでやっていましたが、子供たちの場であり多少気がねがありましたね。みんなの憩いの場が出来たと喜んでいきます」と地区老人クラブの鈴木ノヤさん。間瀬地区公民館でも「住民の熱意が天に届いたという感じです。これが地域づくりの第一歩になれば、と期待しています」と話す。

プレー伸び伸びと

クラブができて一年。二度目の挑戦に立った先月二十日の女子ソフトボール大会では見事! 準優勝。これもこの運動広場で伸び伸び練習できたことが一因かも知れませんね。また、普通だった中学校のグラウンドで再びプレーできることは本当になつかしく、うれしいことです。



間瀬女子ソフトボール部
遠藤幸子さん
(間瀬1区・39歳)

間瀬小学校の裏手にある旧間瀬中学校(現岩室村間瀬研修所)グラウンドが、運動広場としてよみがえり、先月十日、間瀬女子ソフトボール部の練習を皮切りにオープンしました。間瀬地区では昨年、地区民待望の文化、学習の場として地区公民館が完成、社会教育活動の拠点として活発な利用が行われていますが、反面スポーツを伸び伸びと楽しむ体育施設がなく、以前からの運動広場活用への要望があがっていました。しかし、厳しい財政環境のなか計画達成の目標もできない状態でした。そんななか、昨年六月、地区PTAの婦人らが、村主催の女子ソフトボール大会に出場したいと、間瀬地区公民館に相談。地区公民館の指導で、女子ソフトボール部設立発起人会をつくり、用具調達や指導者探しに奔走。その熱意が地区民に伝わり、練習場として間瀬小学校グラウンドを開放してもらうまでになりました。大会をめざして早朝から練習を重ねていくうち、初めてバットやボールに触れたというお母さんたちも徐々に上達。うまくなるにつれて間瀬小学校グラウンドの狭さ(縦60m×横25m)に不満が続出。そして、とうとう「上へ行く」という意見が大勢を占めるようになりました。

「上」とは、旧間瀬中学校グラウンドのことで、「遊ばせておいてはもったいない。草取りでもするから」と女子ソフトボール部が地区公民館に要望。その結果、開放をうけることはできたものの使用されなくなってしまう所、でこぼこで決して条件の良い練習場とはいえない状態でした。そんな状態をみた地区区長会、地区公民館では、村にグラウンドの整備を再度要請。相談を受けた村では資金を自治会補助(財団法人・自治総合センターのコミュニティ助成事業)に求めることをアドバイス。昨年十月、地区公民館を事業主体に助成窓口である県に申請しました。このコミュニティ助成事業は、宝くじの普及広報事業費として自治総合センターに受け入れられる宝くじ受託事業収入を財源に、各地で行われている地域コミュニティ活動に助成をして、コミュニティの健全な発展を図ることを目的にしています。助成の対象は、市町村や地区住民のコミュニティ組織などで、助成金は一件につき百万円から二百万円(一般コミュニティ部門)。県内では、毎年二十前後の団体が助成を受けています。

ところで、昭和六十一年度の助成申請は県下で四十四団体が申請をし、約二倍(審査の結果、二十二団体に総額四千三百万円の助成)の競争率の中でしたが、運よく三百九十万円の事業費のうち、二百万円を調達す